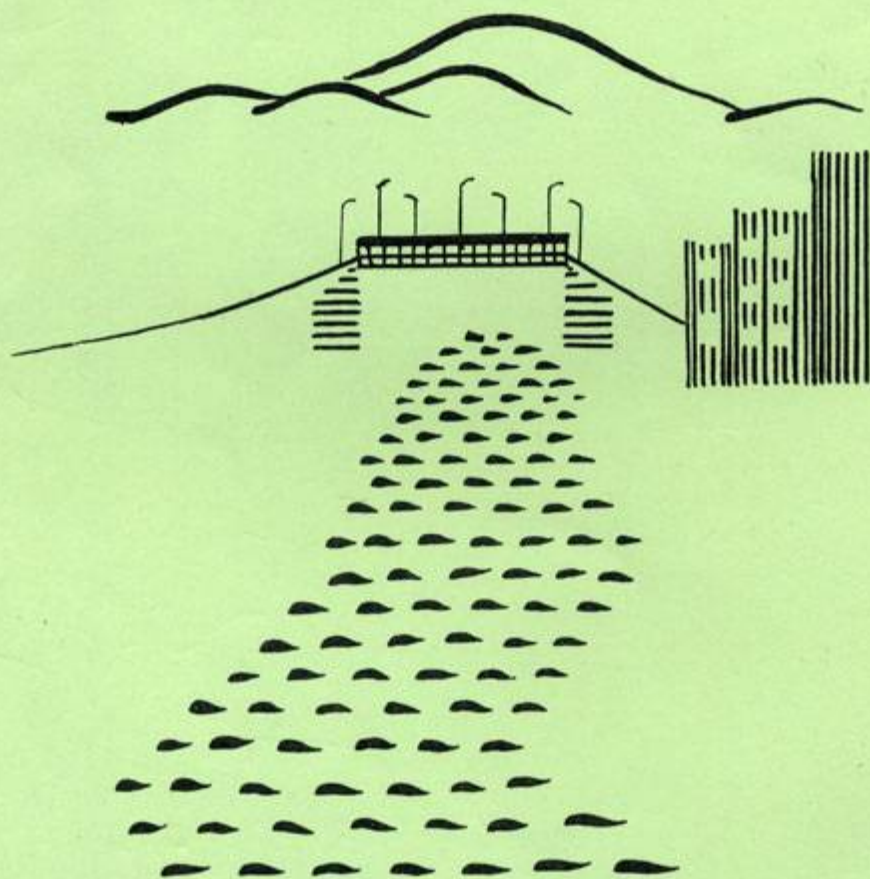


やまと

第 2 号



山門高校同窓会福岡支部

巻頭言

支部長 伊原将暁

(昭和30年卒)

人は兎角、自分の年令を忘れがちであり、年をとる程、いつ迄も若いとの錯覚に陥りがちである。

この時、同じ学校を巣立つた各年代の同窓生と一堂に会する事は、年代の隔たりを感じさせ、自分の年令相応の責任と自覚を喚起させるものであり、年長者との語りにより、自分の未熟さを思わせるものです。同時に、年令を超越し、感受性の強い年代を、同じ母校に過したという共通性が、心の憩と拠所を見出させる。私達の共

通の場が同窓会です。

山門高校同窓会福岡支部も、又一つ年輪を重ね、数えろと六つになりました。

初めは小さく柔かい輪が、外に行くに従い、次第に大きく、少しづつですが、固い、しつかりした輪になりつつあります。

しかしはまだ、本部という樹木に支えられたひよわな幼木に過ぎません。

私達は、この幼木を決して枯らす事なく、更に固く、大きな年輪を重ね、暑い日、疲れた日には憩いのとれる木陰をたくさんつくる、大きな逞しい樹木に、是非、育てあげたいものです。